

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

高取町 漢方を活かしたメディカルツーリズムの推進

2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県高市郡高取町

3 地域再生計画の区域

奈良県高市郡高取町の全域

4 地域再生計画の目標

高取町は平成 19 年度に実質赤字比率 13.93%と財政破綻寸前の状況に追い込まれ、交代した現職町長のもと、財政再建に努めてきた。現在赤字は抑えられ、安定した財政状態となっているが、世界的な経済状況や少子化・高齢化の進展、主要産業である製薬業および農業の衰退等により、税収面における課題は依然として大きい。このような状況において地方創生を推進するには、民間事業者や住民らとの連携を進め、彼らの持つ資源を活用しながら各種の施策・事業を展開していく必要がある。

本町は、古墳時代から飛鳥時代の遺跡が多く存在し、里山の原風景が残るなど、日本の歴史のふるさとと言える。本町には飛鳥時代に建造された斉明天皇陵や 612 年に推古天皇が薬狩りを行ったとされる波多 甕井 神社等があり、隣接する橿原市には藤原宮跡や本薬師寺跡、大和三山が立地し、明日香村には酒船石遺跡や高松塚古墳等価値ある歴史的遺産が多数存在する。昨年度は橿原市、明日香村と合同で申請した「日本国創成のとき～飛鳥を翔(かけ)た女性たち～」が認められ、文化庁の日本遺産の認定も受けている。また、本町を中心とする地域は古来、生薬の原材料となる植物の栽培から漢方をはじめとする薬の製造、そして薬の流通ビジネスが盛んで、日本における漢方・製薬のメッカと言える町である。

本町に隣接する橿原市には「奈良県立医科大学」(以下、「医大」という。)及び県下唯一の特定機能病院で全診療科が揃っている「医大附属病院」が立地している。医大は「MBT (Medical Based Town,医学を基礎とするまちづくり)」という独自の構想を掲げ、新キャンパス整備計画や既存の伝統的建築物を活用したまちづくりの計画を進めている。

こうした地域の強み・特色を活かして、近隣自治体と連携・協力しながら国内外から訪れる交流人口を増やし、地域経済の衰退と人口減少に歯止め

をかけ、脈々と語り継がれてきた歴史と産業を後世に継承していくことが求められている。

本町においては、伝統的な強みである漢方を活用し、製薬業の強化と漢方の原料となる薬草栽培を主とした農業再生を軸としたまちづくりを進める。同時に、奈良県立医科大学の放射線医療技術を駆使した最先端の放射線治療・研究施設を誘致し、高取町を『健康・医療のまち』としてブランディングを行う。さらに、高取の豊かな自然、飛鳥文化を体感できる歴史的資源を最大限に活用し、健康志向や治療目的で訪れた国内外の人々が、観光も楽しむことができるメディカルツーリズムの流れを形成し、地域再生に取り組む。

【目標数値】

	事業 開始前	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	増加分
目標 1 町交流観光客数	10 万人	10.5 万人 (+0.5)	11.0 万人 (+0.5)	12.0 万人 (+1.0)	2.0 万人
目標 2 観光集客イベント数	3	3	4 (+ 1)	5 (+ 1)	2
目標 3 地元製薬企業等の新 規事業・商品件数	3	3	4	5	2

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

メディカルツーリズムの推進による交流人口を増やすため、伝統的な漢方と最先端の医療を融合させた特色ある医学・医療の拠点をめざし、漢方をテーマとした農業・製薬業の六次産業化と、奈良県立医科大学等との連携による医療の提供・研究環境の整備を行い、健康と医療を基礎とした街づくりを進める。また、歴史的に価値のある地域資源を最大限に活用し、橿原市、明日香村など周辺自治体と連携した観光施策を行い、魅力的な暮らしやすい町を作ることで、訪れる人、暮らす人を増やしていく。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）【A3007】

① 事業主体

高取町

② 事業の名称：漢方を活かしたメディカルツーリズム推進プロジェクト

③ 事業の内容

(1) 漢方の六次産業化推進事業

奈良県が進める漢方のメッカ推進プロジェクトと連携し、漢方の原料となる生薬の栽培から製薬、流通まで一貫した産業循環を生み出し、地域の特産である漢方の高付加価値化・六次産業化を推進する。具体的には、休耕地を活用した生薬栽培作付け面積の拡大の推進や、大手製薬会社との生薬生産者の販路開拓支援、移住就農希望者への就農先のあっせん等により生薬の生産者の支援を行う。また、町の生薬を使用した漢方の用途開発と販路拡大のため、民間企業の市場調査、商品開発、新事業立ち上げの支援を行う。さらに薬膳料理のレストランやカフェなどが出展するイベントの企画や、漢方温泉など漢方を使った高取固有の資源を対外的にPRし、『くすりの町』としての認知度を上げ、主に健康志向者をターゲットとした来町者の増加をめざす。

(2) 観光資源を掘り起こし照らす事業

高取城跡地区・土佐街道地区を中心に地域資源を掘り起こし観光資源として磨き上げ、メディカルツーリズムの推進と連携して新たな観光資源の開発を行う。橿原市・明日香村ともタイアップし、IT企業やアーティストによる高取城跡の魅力発信など、高取町および高取町周辺の史跡を有効活用したイベントの企画などに取り組む。

(3) 先進医療誘致事業

健康・医療のまちの柱として、奈良県立医科大学の放射線医療技術を活用した最先端の放射線がん治療および研究の拠点を健幸の森公園に誘致することを検討し、そのための市場ニーズの調査や事業性調査を行う。さらに、一般社団法人 **Medical Excellence Japan** と連携し、海外の患者に対して高取町の先端医療を認知してもらい、治療に来てもらうための仕組みや、外国人へ医療サービスを提供するための適切な体制についても検討する。

④ 当該事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本事業を通じて、伝統的な漢方と最先端の放射線治療を融合させた新しい医療に従事する専門家や技師、外国人観光客の受け入れを始めとする旅行業、既存施設の再生活用を通じたリノベーションに関わる建築、旅館ビジネス等の新たな地域再生を担う事業者や関係団体を育み、持続的に地域経営を行っていくことが期待される。協議会を立ち上げ、事業を行うことで事業収入、会費及び協賛金等の財源を確保し、3年目までに自立して運営していくことをめざす。

【官民協働】

本事業は、自治体と製薬会社等の民間事業者、住民が協働して町ぐるみで国内外からの観光客を誘致し、高取ファンを増やし、リピーターや移住者を生み出していくことをめざす。そのために必要な情報を民間事業者と共有し、議論や事業推進のための組織を立ち上げるなど、仕組みづくりを進める。民間事業者は官民協働の協議会をベースに地域資源を活かした事業を立ち上げ、自ら資金調達を行って事業を軌道に乗せ推進していく。

【政策間連携】

本事業は地域の強み、特色である漢方と歴史的遺産を活かしたメディカルツーリズムを軸として、最先端の医療施設を誘致し、医療政策と観光政策、さらには農業や製造業といった産業政策など多岐にわたる政策間の連携を図る。また、交流人口や移住人口を増やし、生涯にわたり暮らしやすい町をめざすことで、人口減少の抑制や福祉政策にも寄与する。

【地域間連携】

本事業は、それぞれに特色と価値のある“飛鳥文化”の歴史的遺産を有する橿原市、明日香村等の周辺自治体と連携し、橿原市に立地する医大とも連携しながら観光客の受入れやプロモーションを実施することで、相乗効果を発揮しながら地域全体としての活性化をめざして進めるものである。

【その他の先導性】

官民連携で最先端医療の誘致や商品開発などの新たな価値の創造に取り組むとともに、漢方や史跡など既存の伝統的資源の有効活用をそれに組み合わせるといふ高取町独特の取り組みを行う。さらに、海外から患者や研究者を誘致するためのMEJとの連携など、メディカルツーリズムの具体的なモデルの構築に寄与する事業である。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業 開始前	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	増加分
目標 1 町交流観光客数	10 万人	10.5 万人 (+0.5)	11.0 万人 (+0.5)	12.0 万人 (+1.0)	2.0 万人
目標 2 観光集客イベント数	3	3	4 (+ 1)	5 (+ 1)	2
目標 3 地元製薬企業等の新 規事業・商品件数	3	3	4	5	2

■目標 1：町交流観光客数

本町への観光客数は、2015 年（平成 27 年）で約 10 万人である。漢方を活かしたメディカルツーリズムのプロモーションを行うことで、2025 年（平成 37 年）に現在の約 1.5 倍（15 万人）に到達することをめざし、その中間目標として設定

■目標 2：観光集客イベント数

本町では現在、春と秋 3 回のイベントが開催されている。（3 月：町屋の雛めぐり、10 月：町屋のかかしめぐり、11 月：たかとり城まつり）これを今後 5 回に増やし、春夏秋冬の四季を通じて本町を訪れる契機となるイベントを立ち上げ、育てていく。

■目標 3：地元製薬企業等の新規事業・商品件数

良質な漢方薬の原料となる地域の特産品ヤマトウキ（大和当帰）等を活用した医薬品、健康食品の開発や飲食事業等の展開を官学民連携で開発する。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

毎年度末に各 KPI の達成状況をまちづくり課がとりまとめ、まち・ひと・しごと創生総合戦略等審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。また、必要に応じて高取町まち・ひと・しごと創生総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は町のホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

①法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 48,000 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成31年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 日本遺産「飛鳥」魅力発信事業

事業概要：日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち」の魅力を世界に発信するためのウェブサイト制作、PR冊子及びPRビデオの作成

事業主体：奈良県橿原市、高取町、明日香村

（日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会）

事業期間：平成27年度～平成29年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成31年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、まちづくり課において結果について評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業 開始前	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	増加分
目標1 町交流観光客数	10万人	10.5万人 (+0.5)	11.0万人 (+0.5)	12.0万人 (+1.0)	2.0万人

目標 2 観光集客イベント数	3	3	4 (+ 1)	5 (+ 1)	2
目標 3 地元製薬企業等の 新規事業・商品件数	3	3	4	5	2

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

年度ごとに評価をとりまとめ、本町ホームページに掲載する。